

## チューインガムひとつ

小学3年 村井安子

せんせい おこらんとて せんせい おこらんとてね わたしものすごくわるい  
ことした わたし おみせやさんの チューインガムとてん 一年生の子とふたりで  
チューインガムとてしもうてん すぐ みつかってしもうた きっと かみさんが  
おばさんにしらせたんや わたし ものもいわれへん からだが おもちゃみたいに  
カタカタふるえるねん わたしが一年生の子に 「とり」 いうてん 一年生の子が 「  
あんたもとり」 いうたけど わたしはみつかったらいややから いややいうた  
一年生の子がとった

でも わたしがわるい その子の百ぱいも千ぱいもわるい わるい わるい わるい  
わたしがわるい おかあちゃんに みつからへんとおもったのに やっぱり すぐ み  
つかった あんなこわいおかあちゃんのかお 見たことない あんなかなしそうなおか  
あちゃんのかお見たことない しぬくらいたたかれて 「こんな子 うちの子とちがう  
出でいき」 おかあちゃんはなきながら そないいうねん わたし ひとりで出でいっ  
てん いつもいくこうえんにいいたら よその国へいったみたいな気がしたよ せんせ  
い どこかへ いってしまお とおもうた でも なんぼあるいても どこへもいくと  
ころあらへん なんぼ かんがえても あしばっかりふるえて なんにも かんがえら  
れへん おそうに うちへかえって さかなみたいにおかあちゃんにあやまつてん け  
ど おかあちゃんは わたしの かおを見て ないてばかりいる わたしは どうして  
あんなわるいことしてんやろ もう二日もたつているのに おかあちゃんは まだ さ  
みしそうにないでいる せんせい どないしよう

(灰谷健次郎『わたしの出会った子どもたち』より)

人の心の痛みがわかる人は、この詩に立ち止まるだろう。この子の心の前に立ち止ま  
らずにはいられないだろう。時は戻らない。しかし、きっとこの先、安子ちゃんはいい  
人生を送ることができるに違いない。本当の悪人は、自己の行為に対してたいした罪悪  
感も持たず、振り返ることもしない。君たちはどうであろうか。